



平成 28 年度 都市景観大賞

「都市空間部門」受賞地区の概要

「景観まちづくり活動・教育部門」受賞活動の概要

「都市景観の日」実行委員会

■主催：「都市景観の日」実行委員会

(公財)都市計画協会、(一社)日本公園緑地協会、(独)都市再生機構、(一財)民間都市開発推進機構、(公社)日本都市計画学会、(一財)都市みらい推進機構、(公社)街づくり区画整理協会、(一社)日本屋外広告業団体連合会、(公財)都市づくりパブリックデザインセンター、全国景観会議、都市景観形成推進協議会、歴史的景観都市連絡協議会、全国街路事業促進協議会

■後援：国土交通省

■協賛団体：

(一財)都市文化振興財団、(一財)計量計画研究所、(公財)区画整理促進機構、(公社)日本交通計画協会、(一社)再開発コーディネーター協会、(一社)日本造園建設業協会、(一財)公園財団、(一社)ランドスケープコンサルタンツ協会、(公社)日本下水道協会、(公財)自転車駐車場整備センター、(公社)立体駐車場工業会、全国土地区画整理事業推進協議会、都市再開発促進協議会

■事務局：(公財)都市づくりパブリックデザインセンター

〒112-0013 東京都文京区音羽2丁目2番2号 アベニュー音羽2階 TEL 03-6912-0799 URL <http://www.udc.or.jp>

「都市空間部門」

受賞地区一覧

「大賞」(国土交通大臣賞)

応募件数：12件

地区名	地区面積	応募者
<small>こしがや</small> 越谷レイクタウン地区 (埼玉県越谷市)	約 225.6 ha	<ul style="list-style-type: none"> 埼玉県 越谷県土整備事務所 越谷市 一般社団法人 越谷市観光協会 独立行政法人 都市再生機構 首都圏ニュータウン本部
<small>しんかわせんぼんざくらえんせん</small> 新川千本桜沿川地区 (東京都江戸川区)	約 39.0 ha	<ul style="list-style-type: none"> <small>しんかわせんぼんざくら</small> 新川千本桜の会 江戸川区
<small>きゅうちようふふじみちようじゅうたく</small> 旧調布富士見町住宅地区 (東京都調布市)	約 1.6 ha	<ul style="list-style-type: none"> 調布富士見町住宅マンション建替組合 調布市 株式会社 NEXT ARCHITECT&ASSOCIATES
<small>きゅうとうかいどうふたがわしゆく</small> 旧東海道二川宿地区 (愛知県豊橋市)	約 35.5 ha	<ul style="list-style-type: none"> 豊橋市 <small>ふたがわしゆく</small>、まちづくり会 <small>おおいわちようひがし</small> 大岩町東まちづくり会 <small>おおいわなか</small> 大岩中まちづくり会 <small>ふたがわしゆく</small> NPO法人 二川宿 <small>ふたがわ おおいわ</small> 二川・大岩まちづくり協議会 <small>いわや</small> 岩屋緑地に親しむ会 <small>ふたがわ</small> 二川リンケージ <small>ふたがわ</small> 二川つるし飾りの会 国立大学法人 豊橋技術科学大学
<small>がい おおかいどうしゅうへん</small> ロープウェー街・大街道周辺地区 (愛媛県松山市)	約 5.6 ha	<ul style="list-style-type: none"> 松山ロープウェー商店街振興組合 松山ロープウェー中央商店街振興組合 <small>おおかいどう</small> 松山大街道商店街振興組合 森ビル株式会社 国土交通省松山河川国道事務所 松山市

「優秀賞」(公益財団法人 都市づくりパブリックデザインセンター理事長賞)

地区名	地区面積	応募者
<small>け ごこうえんしゅうへん</small> 警固公園周辺地区 (福岡県福岡市)	約 1.1 ha	<ul style="list-style-type: none"> 福岡市 福岡大学工学部景観まちづくり研究室 アーバンデザインコンサルタント <small>け こ</small> 警固公園対策会議

「特別賞」(公益財団法人 都市づくりパブリックデザインセンター理事長賞)

地区名	地区面積	応募者
<small>しんへびた</small> 新蛇田地区 (宮城県石巻市)	約 46.5 ha	<ul style="list-style-type: none"> 石巻市

「都市空間部門」総評（審査委員長：陣内秀信）

景観づくりがこれほど豊かで面白いのか、と思わせる素晴らしい成果が本年度は数多く集まった。応募総数はむしろ少なく、やや心配でもあったが、第一次審査で選ばれ現地審査の対象となった6地区のすべてが、現地を訪ねた委員を感動させ、唸らせるほどの成功例であった。長年、国をあげて取り組んできた景観づくりへの努力が大きな実を結ぶ段階にきたことを感じさせる、嬉しい審査会となった。甲乙つけがたい優れた対象ばかりで、しかもスケール、担う主体、手法のどれもタイプの異なる景観づくりへのチャレンジなので、大賞を絞り込むのが極めて難しく、議論の結果、本年度は異例だが、今後の継続的発展への期待も込め、5つの大賞を授与することとした。

大賞を受賞した5地区は、どれも新境地を切り拓くものだった。「越谷レイクタウン地区」は、治水の公共事業を景観に重きを置く地域づくりに結び付けるという発想の転換により、日本離れした大スケールの気持ちのよい水の風景を創造した。「新川千本桜沿川地区」は、大都市の真ん中を流れる河川沿いを舞台に、熱い思いの住民達と経験豊富な行政とのよき協同で実現した美しく居心地の良い水辺空間で、全国のモデルとなる。「旧東海道二川宿地区」は、重伝建地区のような連続した町並みが残るわけではないが、受け継がれた本陣、旅籠屋、商家などを地域財産として上手に活かし、景観形成を明確な戦略をもちながら官民一体となって推進した素晴らしい成功例である。「旧調布富士見町住宅地区」は、近年、大きな課題となっている団地建替を見事に成し遂げた事例で、住棟群の配置を根本的に変え、中央軸となる素敵なコミュニティ街路を生み出し、美しい景観を創造。その卓抜なるアイデアと実現への努力は高く評価される。「ロープウェー街・大街道周辺地区」は、空き店舗が増えて寂れた商店街を、「まちづくりガイドライン」にもとづき、街路、建物外観、看板などの総合的な景観のマネジメントを成功させ、賑わいが復活した。手づくり的な景観・街づくりの手本と言える。

優秀賞の「警固公園周辺地区」は、危険ゾーンだった場所を、既存の要素を活かしつつ見違えるような魅力ある公園に転換した価値ある成功例で、限りなく大賞に近い業績である。また、東日本大震災の復興のもとで取り組まれた空間づくりの優れた成果である石巻市の「新蛇田地区」に対し、その努力を評価し特別賞が与えられた。

このように本年度は、レベルの高い優れた成果が集結した年だったが、実は、応募申請書の内容だけでは、その価値、魅力が十分に理解できないものも少なからずあった。今後に向け、申請書の書き方への工夫を望みたい。

「大賞」(国土交通大臣賞)

■地区名：越谷レイクタウン地区

■面積：約 225.6 ha

■所在地：埼玉県越谷市

■応募者：埼玉県 越谷県土整備事務所、越谷市、一般社団法人 越谷市観光協会、
独立行政法人 都市再生機構 首都圏ニュータウン本部

■地区の概要：

当地区は、東京都心から北方約 22.0 km の距離にある越谷市の東南部に位置している。ここは中川流域で約 8 割が田であり JR 武蔵野線が地区中央を東西方向に通っていることから、越谷市東南部地域の新たな拠点として鉄道新駅を設置し、利便性を活かした計画的市街地と河川施設を一体的に整備し、健康でかつ良質な住環境を有する新市街地形成を目的に、面積約 225.6ha の区画整理事業と河川事業を実施したものである。

人工池（大相模調節池）を街の中心に据え 39.5ha の水面を生かし、水とともに暮らす親水文化創造都市を目指すまちづくりを行った。新駅から池は水辺と都市の景観エリア（にぎわい）としオープンスペースや施設を配置、地区外から池は水郷の景観エリア（自然）としビオトープや公園などを配置し、人工池があたかも太古からあるような独特な景観が形成された。

まちづくり市民活動の取組は、地域住民、市民団体、一般公募市民から構成される「水と緑の懇談会」から発展し設立された「越谷レイクタウンふるさとプロジェクト」（平成 25 年に NPO 法人化）において、市民参加誘発の拠点として建設した水辺のまちづくり館を核に、池周辺の景観維持管理に加えレクリエーションや子供育成など、様々な市民団体等による多彩な活動が展開され、着実に広がっている。

■審査講評：

ずっと以前からこの事業は知っていたし、地区内の SC（ショッピングセンター）にも来たことはあったのだけど、訪れてみて印象は強烈であった。埼玉県の特に南部地域は地形が平坦で、東京湾から標高はほとんど上がっていないため、内水排除等の洪水対策が重要な地域である。そういった地域事情を逆手にとり、通常はカラ堀で殺風景な調整池を常時水面のある湖として造り出してしまった、それがレイクタウンである。越谷市の南部のこの場所に巨大な湖がある景色は不思議であるが素晴らしい。これがこの大きな区画整理地区用の調整池に加え、大相模調節池と呼ばれる元荒川の調整機能を合わせ持つ湖である。常時水面は調整池の底であるから、水面は地平から少し下の方にあるが、広々としてうまく作られているから親水性は高い。台風の時には計画通り地面すれすれまで水位があがり、住民の方たちはハラハラされたようだ。人工の湖が内陸にあり、きちんと治水機能を持ち、平常時はボートを浮かべることができ、ビオトープとして多様な生物の生息環境を造り出している。視察時にも周辺の住宅地を大型の鳥が飛んでいる姿にも出会った。225ha に及ぶ特定土地区画整理事業であるから、JR 武蔵野線の駅とその駅前広場等の新設、誘致機能としてのこれまた巨大な SC など新しい街として特徴ある機能を持ち、住宅地では様々な工夫や地区計画の活用などにより良好な景観形成が取り組まれている。そしてなんといっても地区中央の湖とその畔にある公共的空間の伸びやかさ。残念なのは地区の一つの目玉機能である SC が余り湖の方を向いてないな、と思えたこと位か。都市開発の可能性の高さを再確認できる街である。（高見）



越谷レイクタウン駅から大相模調節池方面を望む。駅北口から大相模調節池が望めるよう駅前広場を整備。



市民の憩いの場として提供している芝生広場（斜面広場）と様々な水辺の利活用の拠点となる棧橋風駅。



2.6ha と広大な「見田方遺跡公園」で遊ぶ人たち。大規模なイベント等で活用できるようオープンスペースを整備。



駅方向から大相模調節池を望む。地域の洪水被害軽減のために作られた人工池（大相模調節池）を街の中心に据え、広大な水面を豊かな親水空間として整備。

「大賞」(国土交通大臣賞)

- 地区名：新川千本桜沿川地区
- 面積：約 39.0ha
- 所在地：東京都江戸川区
- 応募者：新川千本桜の会、江戸川区

■ 地区の概要：

江戸川区南部を東西方向に流れている新川は、江戸時代から重要な水上輸送路として地域の人々の生活に深く関わってきた河川である。しかしながら、地盤沈下によるコンクリート護岸のかさ上げや都市化による雑排水の流入等により、人々の生活から隔てられ、新川を挟んだ南北地域の交流は疎遠になっていた。

その様な状況の中、江戸時代より地域の歴史を刻んできた新川を次世代へと継承することを目的として、地域の町会・自治会、各種団体などの構成による「新川千本桜の会」が設立し、当団体を中心とした地域住民と江戸川区の協働による「新川千本桜事業」の実施に至った。新川を水辺に親しむことができる親水河川とするため、かさ上げされた既設コンクリート護岸の改修をはじめ、江戸情緒漂う桜並木や遊歩道、西水門広場や新川さくら館等を整備した。併せて、新川沿川の景観計画や周辺の地区計画により、新川沿道では新川と調和した街並みを形成してきている。

こうした新川千本桜の取組により新川は新たな魅力を発揮し、新川を中心に人々が集まり、自発的なボランティアによる日常的な清掃が行われ、新しいコミュニティも生まれている。また、以前は新川に隔てられていた南北地域は、川面にひらけた水辺や人道橋・広場橋を通じて、交流が盛んに行われており、「新川千本桜沿川地区」が地域の核として地域力の向上に大きく寄与している。

■ 審査講評：

そぞろ歩きができる水辺の桜。これはもう無敵である。しかしこの黄金のコンビネーションを高密度な都市に出現させるのは容易ではない。川沿いの連続的歩行者動線、植栽空間、近い水面、沿川の街並み、休憩場所、魅力的な橋、要所のランドマーク。そして魚や鳥の姿を添えた川面。新川はこれらの基礎的条件をインフラ整備によって獲得し、地域から寄せられた約 8,600 万円の桜基金による 716 本の桜が水辺を彩ることとなった。無愛想な護岸の向こうに水が淀む状態から、老若男女の姿が絶えないまちの中心軸へ。すべて人の手、地域の手で再生された水辺は、誠に素直に心地よい場となっている。花のあるなしにかかわらず、住み、働き、訪れる人々の普段の環境の豊かさを保証している。沿川の個人や企業も自主的に景観形成に協力している。この場所を縁とした市民活動の展開も目覚ましい。こうしたポジティブな連関が生まれるのは、このプロジェクトが、現場に向き合い、人に向き合い、ひとつひとつ丁寧に考え、愛情をもって取り組んだ無名の人々の仕事の集積であるからだ。都市の公共空間デザインの規範である。(佐々木)



新川さくら館前、広場橋（桜橋）から西側を望む。満開の桜の中、船着場から和船の運航を行っている。



えどがわ百景 新川千本桜と火の見やぐら（西水門広場）江戸の花の象徴である桜を新川の両岸に並木状に植栽し、新しい桜の名所として潤いのある水辺づくりを実施。



人道橋 橋台部の護岸（自然石積み護岸）。江戸情緒あふれる川辺づくりとするために、江戸風情を醸し出す木橋及び木製高欄の形状、橋台における護岸等を整備。



新川の地域交流拠点 「新川さくら館」。お休み処や多目的ホール、集会室を備え、広場等と合わせてイベントの開催を実施。次世代に地域の歴史や文化を継承する空間となっている。

「大賞」(国土交通大臣賞)

■地区名：旧調布富士見町住宅地区

■面積：約 1.6 ha

■所在地：東京都調布市

■応募者：調布富士見町住宅マンション建替組合、調布市、株式会社 NEXT ARCHITECT&ASSOCIATES

■地区の概要：

昭和 46 年に竣工した当地区(調布富士見町住宅)は、5 棟(5 階建)、176 戸(住戸は 51 m² 1 タイプ)と、市道北 183 号線及び児童遊園が配置されていた。竣工後 40 年を経てこの団地は、建物の老朽化だけでなく地域との関わりの中で、敷地内通路の一部を竣工後公道としたための敷地の分断、地域の通過交通の流入、生活動線(ゴミ置場、駐車場へのアクセス)と交錯、不整形な交差点、アプローチが脆弱で且つ閉鎖的な公園等、いくつかの課題を持つようになった。

その様な状況の中、一般的な建替は、建物の更新を主目的(耐震性、設備性能等)に行われるが、当地区は、団地が地域との課題を勉強会やワークショップを通して行政側と共有化し、単純な市道の付替えに留めず「人を主体としたコミュニティ街路」として、車の通過交通の進入と速度を抑え、植栽やポケットパークや街路沿いの建物との潤いのある一体的な景観を官民の共同で造り上げた。その結果、四季折々の豊かな景観性を持った街並みを形成したところに大きな特徴がある。

今回の付替え道路の実現やコミュニティ街路化は、住民が主体的に参加し市に働きかけて作り上げたものであり、そのため、この景観・風景に対しての誇り、愛着心が強く、その思いがこの景観をより育てていくための様々な活動にも展開している。また、この再生を契機に東側公道の歩道整備や、西側交差点は通学路が整備されるなど波及効果も生まれている。

■審査講評：

緩やかにカーブを描くコミュニティ道路で花木を愛でる人たち、近隣住民も利用可能な共用部(ガーデンカフェ)でお茶を楽しむ談笑する人たち。敷地内のそこそこで住民のコミュニティが醸成しつつある。当地区は建物の老朽化と日常的な不具合により、何度となく建替の話が湧き起こったが、建設当時の規制が障壁となりそれを阻んできた。平成 20 年住民による準備会発足から再び機運が盛り上がり、一団地規制の撤廃、地区計画の制定、まちづくり協議会の設立といった段階的手続きを経て建設にこぎつけた。その間には「談話室」と呼ばれる場を設け継続的な対話により 100%の合意形成ができたことも大きい。コミュニティ道路の計画にあたっては住民、事業者、設計者、市担当で何度となく他事例を見学し検討や議論を積み重ねてきた。イメージハンブ、フォルト、舗装材などのデザイン的工夫、駐車場の地下化や横断帯の設置で「みちはガーデン」という道を生かした街づくりを貫き通した。建物計画では雁行配置によるポケットパークの確保、北側住戸の 3 面開口、エントランスホールの通景の獲得など特筆すべき点が多く見られる。造園計画も魅力的である。北側に位置する深大寺との関係を強く意識し、茶花などバラエティに富んだ植栽計画やそれによる鳥類の飛来もコミュニティ形成に一役買っている。本開発が契機となって直近のバス通りの歩道拡幅が進んでいることも含め、官民一体となった真摯な取組みを高く評価したい。(富田)



敷地北側にあった市道を中央へ付け替えコミュニティ街路とした。道路線形を緩やかに曲げ、車の速度の抑制と景観の変化を意図している。イメージハンブや植栽帯(フォルト)も配置。



マンション駐車場を地下化し出入口を建物端部に設けることで、当該街路部分には居住者自身の車さえも進入を抑制するよう配慮。



コミュニティ街路を挟んで 2 棟の雁行形式の建物を配し、「街路全体を庭園化し建物との一体的風景」というコンセプトのもと、石畳の街路を中心に建物まで一体的にデザインしている。



雁行配置によってできた空をポケットパークに活用。調布の豊かな自然を修景した。道路に面した分譲マンションの共用部は、ガラス張りにしてあるため、外から中の賑わいが見える。

「大賞」(国土交通大臣賞)

■地区名：旧東海道二川宿地区

■面積：約 35.5 ha

■所在地：愛知県豊橋市

■応募者：豊橋市、'二川宿' まちづくり会、大岩町東まちづくり会、大岩中まちづくり会、NPO 法人 二川宿、

二川・大岩まちづくり協議会、岩屋緑地に親しむ会、二川リンケージ、二川つるし飾りの会、国立大学法人 豊橋技術科学大学

■地区の概要：

二川宿は、旧東海道 33 番目の宿場町で、今でも当時の町割りや本陣などの歴史的建造物が残っている。しかし、切妻平入りの家々が建ち並ぶ伝統的なまち並み景観は大きく失われ、人の繋がりやまちの活気も薄れつつあった。伝統的建造物群保存地区に選定されるには至らない、どこにもあるような古いまちで、いかにまち並みを再生し、活気を取り戻すかが課題であった。

市は、昭和 58 年から宿場町の環境整備調査を実施し、宿駅遺構である本陣、旅籠屋、商家を文化財として順次整備し、平成 18 年からは住民と協働によるまち並み景観形成に取り組み出した。一方、地域住民は、様々な団体がまちの魅力向上や、まちの活性化に寄与する活動を、相互に連携しながら進めてきた。この様に、残された 3 つの宿駅遺構を景観の核とし、無理のない景観形成基準を官民で共有し、丁寧な取り組みを継続して進めてきた長年の取り組みにより、旧街道のまち並み景観や瀬古道の路地空間が再生され、更には、住民による花の飾り付けなどが彩りを添え、宿場町の風情が高まっている。

まち並み景観の再生がきっかけとなり、地域イベント等の住民活動も年々広がりをもせており、まちに活気が戻りつつある。また、住民のまちに対する誇りが増し、外部の人からも選ばれるまちになってきたが、まだまだ再生途上であるため、今後も住民と行政のさらなる取り組みを進めていく。

■審査講評：

豊橋市は、すでに昭和 58 年から二川宿の歴史的資源の調査をはじめ、これまでに本陣、旅籠屋「清明屋」、商家「駒家」の復原工事を行い、一般公開をしてきた。平成 19 年には延長 1.5km にわたる旧宿場町のほぼ半分を景観条例に基づく「二川宿景観形成地区」に指定し、沿道の建物や工作物等のデザイン誘導をはかってきた。平成 22 年、27 年にはさらに地区を拡大し、現在ではほぼ地区の 8 割が指定されている。その結果、36 件の物件に助成金が出され、まち並み環境は大きく変わってきた。住民との合意形成に時間をかけながら、丁寧に景観形成に取り組んでいること、また改修等のデザイン提案についても、都市計画課の職員が自ら CG を描いて、住民と直接話す話し合う方式は大変素晴らしい。

一方、関係住民団体や NPO も 8 団体あり、「大名行列」や「灯籠で飾ろう二川宿」等のイベント、さらにつるし飾りや一輪挿し等、歴史的な街並みにアクセントを与えている。

本地区の取組は、これまでの重要伝統的建造物保存地区とは異なる、よりゆるやかな歴史的な町並み環境形成に積極的に挑戦しており、特に時間をかけながら行政と住民が一体となって地道に取り組んでいる点は高く評価できる。(卯月)



二川宿の旧東海道沿いの眺め。二川宿は、本陣、旅籠屋、商家の 3 か所を見学できる日本で唯一の宿場町である。左の建物は豊橋市指定有形文化財商家「駒屋」。



商家「駒屋」の広場でおこなわれたイベントの様子。自由に入力できる「駒屋」の敷地は、土蔵や板塀で囲われ、心地よい空間になっている。



商家「駒屋」の横にある瀬古道(せこみち)の眺め。市の文化財整備(右)と住民の景観整備(左)が一体となって趣のある景観が形成された。



二川宿の夏の風物詩になってきた「灯籠で飾ろう二川宿」の様子。沿線に約 3 千個の灯籠が並び、幻想的なまち並み景観が生まれる。

「大賞」(国土交通大臣賞)

■地区名：ロープウェー街・大街道周辺地区

■面積：約 5.6 ha ■所在地：愛媛県松山市

■応募者：松山ロープウェー商店街振興組合、松山ロープウェー中央商店街振興組合、
松山大街道商店街振興組合、森ビル株式会社、国土交通省松山河川国道事務所、松山市

■地区の概要：

当地区は、国道 11 号を中心に、松山城へ続くロープウェー街を有する観光エリアと、市内最大のアーケード商店街(大街道)を有する商業エリアが隣接している。観光客数の減少や空き店舗の増加、大型商業施設の閉館等を契機に、まちづくりへの機運が高まり、「景観」をキーワードに、地域と行政が一体となって景観整備が進められた。

市の道路整備では、無電柱化に加え、舗装材やストリートファニチュアの素材、色彩の統一を図ることで、統一感のある景観を形成。併せて、ロープウェー街では、地元が作成した任意の「まちづくりデザインガイドライン」に基づく沿道建物のファサード整備が行われ、大街道では、エリアの特性を生かしながら、再開発ビルの建設、アーケードのリニューアル等が統一的な景観コンセプトのもとに行われた。

こうした官民連携の取り組みによって、地域主体のイベントが生まれ、地域への愛着と誇りが高まったほか、地方都市の地価が減少する中、全国トップクラスの上昇率を示したほか、空き店舗もほとんどない状況となるなど、地域の活性化が図られ、地域経済へも好影響を生み出す結果となった。

また、地元は引き続き、新規出店テナントに対してファサードデザインの審査や指導を継続、行政は、景観計画区域、松山城の眺望を守るための眺望保全区域に基づく行為の制限によって、良好な景観の形成・保全に向けた取り組みを進めていく。

■審査講評：

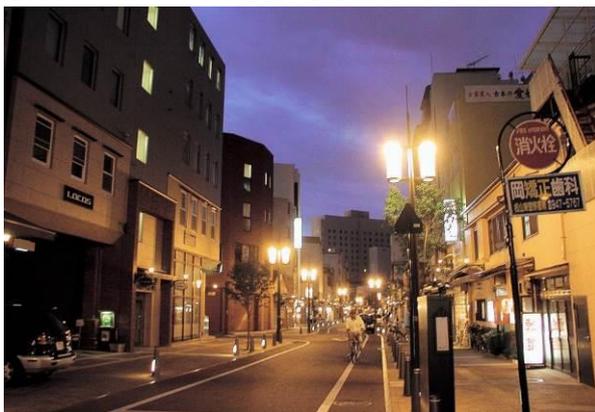
「シャッター通りから生還した街」ロープウェー街は、まさにその名に相応しい場である。全国に点在する数多くの死んだ街のなかで、ここは竣工後 10 年余りを経て、見事に生き返っている。かつては、この街もまた薄暗いアーケードと、シャッターが閉まったままの店舗が続く商店街であった。しかし今、松山市民の誰もが「美しい、きれいになった」と称賛する。その、デザイン手法自体は、他の街でも「計画」されているガイドラインと大きな差異はない。「既存アーケードの撤去・店舗ファサードの素材と色彩の共通化・店舗看板のサイズの統一・突出し看板の共通デザイン化・統一オーニングの採用・オリジナルデザインの街路照明やストリートファニチュアの設置・その他多様な運営基準の設定など」そのどれを取っても特別なものではない。しかし、「徹底した実施」がなされていることが、決定的な違いだ。その背景には、この街を運営する人々の並々ならぬ熱意がある。その結果、ごく一部の例外を除き、見事な統一がなされた。そして、空き店舗ゼロという、街の活力を再生したのだ。夜ともなれば、この道を行き交う恋人たちの「とっても素敵な街ね、、、」という囁きが聞こえてくる。(田中)



国道 11 号からロープウェー街を望む。観光の玄関口。街路整備がなされ、沿道建築物のファサードなどを改築。統一の突出し看板・オーニングテントを使用している。



国道 11 号から大街道を望む。商業の玄関口。街路整備がなされ、民間再開発ビルの整備やアーケードのリニューアル整備を実施。



松山城へのエントランスとなるロープウェー街(夜景)。道路整備には、煉瓦・石・鉄など歴史的質感のある素材を使用。



ファサードをリニューアルした大街道商店街アーケード(夜景)。鉄と木目を組み合わせた透過性のあるデザイン。

「優秀賞」((公財)都市づくりパブリックデザインセンター理事長賞)

■地区名：警固公園周辺地区

■面積：約 1.1 ha

■所在地：福岡県福岡市

■応募者：福岡市、福岡大学工学部景観まちづくり研究室、アーバンデザインコンサルタント、警固公園対策会議

■地区の概要：

福岡市中央区の警固公園はかつて園内の死角の多さから、若い女性を狙った性犯罪や夜間の騒音被害等が相次ぎ、犯罪の防止と迷惑行為の抑制が急務の課題となっていた。これを受け、同公園の再整備事業が実施され、平成 24 年 12 月にリニューアルオープンした。

本事業ではデザインコンセプトを「防犯と景観の両立」とし、単に見通しを良くする防犯対策にのみならず、周囲の景観や賑わいを考慮したデザイン提案がなされた。デザインプロセス上の仕組みとして、福岡県警、福岡市役所、地区住民等が一堂に会する「警固公園対策会議」が平成 22 年に発足、公園の治安対策に関わる現状や再整備の方針について協議・報告等がなされた。更に実施設計にあたっては、アドバイザーである福岡大学工学部景観まちづくり研究室によるヒアリング調査や利用行動調査等が実施され、デザイン提案に反映される等、官民連携による景観整備を実施した。

その結果、治安改善とともに人通りの増加、園内における利用者動線の広がり等が確認された。また再整備から 1 年後、隣接する商業ビルが公園の眺望を活かした外壁改修を実施し、以前からあったカフェに加え、ソラリア・プラザ内の他の珈琲店も公園側に移転、「警固公園が一望できるカフェ」として売り上げを向上させている。同じく隣接した警固神社の参拝客も増加するなど、警固公園の再整備による周囲への波及効果が確認された。

■審査講評：

「警固公園周辺地区」の取組は、「再整備」「地域再生」という都市景観賞における新たな評価軸を切り拓くものである。1951 年に開設されたこの公園は、「公園内の見通しと動線を確保し防犯効果を向上し、周囲に広がる街の景観とにぎわいを公園の魅力として取り込む」ことを目的とし、従前の池や展望台を撤去し、生まれ変わった。福岡市・中央区・天神・大名地区住民・福岡大学で構成された「警固公園対策会議」の連携協力の賜物であるが、その効果を倍増させたのが、隣接する商業ビル（ソラリア・プラザ）の外壁のガラス化である。公園に背を向けていた施設が公園に開かれたことで空間の価値を高め、収益にも寄与するという立証したことは大きな成果である。

負の資産となっていた公園が、世代を超えた市民の憩いの場として生まれ変わり、「地域の資産価値を高める」という公園本来の力を牽きだし、地域活性化につながった事例として波及効果が高い。

既存の樹木を残しつつ、十分な動線・実態調査に基づいて設計された芝生広場で多くの市民がゆったりと過ごす様子は、公園再生のあり方を示すものであり、優秀賞にふさわしいと評価された。（池邊）



公園の再整備を機にリニューアルオープンしたソラリアプラザ・カフェからの眺め。死角を形成し、性犯罪等の発生から立入禁止となっていた築山を撤去、中央園路を新設して園内外の視線交錯と動線促進を図った。



公園南側からみた新公園の様子。より広がった中央広場では市民や企業によるイベントが多数行われ、再配置した改修以前からの自然石ベンチならびに新設したみはらしの丘等、利用者の増加に繋がった。



演出照明の組み込まれたベンチ、築山撤去によって見えるようになった警固神社通りの歩行者とレゾラビル、リニューアルオープンしたソラリアプラザのファサードが園内の夜景を彩る。



改修前は人通りがほとんど無かった南側通路の現在の様子。老朽化とともに死角を形成し犯罪の温床となっていたトイレを移設。通路自体の線形も直線化し、加えて二重の柵が張られていた警固神社との境界部を改修した。

「特別賞」((公財)都市づくりパブリックデザインセンター理事長賞)

■地区名：新蛇田地区

■面積：46.5 ha

■所在地：宮城県石巻市

■応募者：石巻市

■地区の概要：

本地区は石巻市の中心部から西へ約4km、三陸縦貫自動車道の石巻河南ICに近接する被災市街地復興土地区画整理事業地区(石巻市施行)である。石巻市は東日本大震災で全住宅の約3/4が被災し、5万人強の方が避難するような状況であった。そのような中、平成23年12月に震災復興基本計画を策定、翌年3月に都市計画決定、同年7月に事業認可、平成26年11月に第一期宅地供給、平成27年3月に第一期復興公営住宅入居、同年11月には「まちびらき」と異例の速さで事業を進行させた。

計画地の東側は土地区画整理事業が完了、南側はJR仙石線まで新蛇田南復興土地区画整理事業が展開されている。こうした立地を生かしてJR仙石線に新駅を設置し、この駅へ続く歩行者専用空間を軸に「憩いの空間」や「水辺の空間」を配置、穏やかな気持ちで過ごせる空間を整えている。

また、四阿には地元の雄勝石を屋根材に使用し、高圧線下には「返礼」と「困難に打ち勝つ」という花言葉を持ったハナミズキとサザンカを配した「四季の並木道」を設置、健康遊具、防災ベンチなども備えた「希望」の住宅地を生み出している。

当地区は、新しいまちとして、スタートしたばかりである。今後も石巻の復興を先導する地区として、地域の特徴や、空間特性を計画的・段階的に整備し、これからもみんなに親しまれ、育まれ、そして愛されるよう、地域と行政が協働してエリアマネジメントに取り組んでいく。

■審査講評：

本地区は東日本大震災の復興という非常に難しい状況下で取り組まれた事業であるにもかかわらず、立地選定から「まちびらき」まで極めて短期間のうちに事業を進捗させ、早期の住宅供給を実現した。また、一方でJR仙石線に新駅を設置して中心市街地との間を公共交通で結ぶ、地区内に歩行者空間を巡らせて健康や防災を意識した空間づくりを目指すなど次の時代を意識した取り組みも行われている。加えて、復興公営住宅についても集会施設はもちろん菜園も用意されているなど、被災された方のライフスタイルを意識した工夫も見受けられる。

平時の新市街地型土地区画整理事業と同じように、地区計画を活用して景観に配慮したまちづくりを目指しているが、「まちびらき」が行われたばかりであるため、現時点では景観形成の中心は公共施設となっており、まだコミュニティとして成熟した取組が幅広く、多様・多彩に行われているわけではない。

今後、被災者の皆さんがこの地で新しいコミュニティを育み、一段と質の高い景観まちづくりに協働で取り組む日が一日も早く来ることを期待して、ここに特別賞を授与するものである。(岸井)



『水辺の空間』の中心をなすせせらぎの小径。「水」を通じて、潤い・賑わい、そして大切さを感じとり、時の流れとともに表情を変える美しい水景が日々の暮らしの中にとけこみ、再び穏やかな暮らしが送れるようにと整備された。



高圧線下の土地を公共用地(歩行者専用道路)として利用した四季の並木道。幅員を広く、有効的に確保することで、交流を深めるイベント等のテント設営も可能とした。



1号公園の湧水の池より南北に設けた「せせらぎ」による『水辺空間』。手押しポンプを設け、子供から大人まで親しまれるスペースを用意した。



平成27年11月3日まちびらき。開放された1号公園の遊具で遊ぶ子供達の元気な声が聞こえる。

「景観まちづくり活動・教育部門」

受賞活動一覧

「大賞」（国土交通大臣賞）

応募件数：23件

活動名	活動エリア	応募者
みなみまち 南町2850プロジェクト～喜多方市 おたづき 小田付地区 空き家・空き地の再生～	福島県喜多方市 小田付地区	<ul style="list-style-type: none"> ・会津北方小田付郷町衆会 ・福島県立喜多方桐桜高等学校 ・株式会社 ワークヴィジョンズ ・福島県建築士会 喜多方支部 ・株式会社 光進都市コンサルタント ・福島県喜多方建設事務所 ・喜多方市 ・公益財団法人 福島県区画整理協会
景観まちづくり 街のみなでおもてなし 「福江*つるし飾りロード」	愛知県田原市 福江地区	<ul style="list-style-type: none"> ・清田・福江校区まちづくり推進協議会
にしてつやながわ 西鉄柳川駅周辺に於ける市民・事業者・ 行政・専門家による景観まちづくりの 取り組み	福岡県柳川市 西鉄柳川駅周辺地区	<ul style="list-style-type: none"> ・柳川市 ・西日本鉄道株式会社 ・西鉄柳川駅周辺地区デザイン検討会議 ・柳川市立藤吉小学校 育友会 父親委員会

「優秀賞」（公益財団法人 都市づくりパブリックデザインセンター理事長賞）

活動名	活動エリア	応募者
高校生と共に進めるイザベラ・バードの 古道復元活動	山形県川西町 小松地区	<ul style="list-style-type: none"> ・諏訪峠古道保存会
まちづくり総合学習	福島県いわき市 久之浜・大久地区	<ul style="list-style-type: none"> ・いわき市立久之浜第一小学校 ・久之浜大久地区まちづくりサポートチーム
くりやま 栗山みどりの保全事業（たろやまの郷）	千葉県四街道市 たろやまの郷	<ul style="list-style-type: none"> ・四街道市 ・栗山みどりの保全事業実行委員会
ふじさわこどもまちづくり会議	神奈川県藤沢市 藤沢市内全区	<ul style="list-style-type: none"> ・ふじさわこどもまちづくり会議実行委員会
ふとろじま 懐島プロジェクト —歴史・地形・生活から読み解く—	神奈川県茅ヶ崎市 懐島エリア	<ul style="list-style-type: none"> ・まち景まち観フォーラム・茅ヶ崎
なかせんどうなかつがわじゆく 中山道中津川宿の景観まちづくり	岐阜県中津川市 中山道中津川宿	<ul style="list-style-type: none"> ・本町中山道景観協議会＋中津川市＋ 名古屋工業大学景観研究会 ・中津川市 ・名古屋工業大学景観研究会

「景観まちづくり活動・教育部門」総評（審査委員長：小澤紀美子）

本部門への応募は 23 団体からあり、各応募の活動はその内容の多彩さや取り組みは独自性にあふれ魅力的な活動事例ばかりであった。まず、第一次審査は書類審査を行いました。活発な意見を交換して現地調査に伺う団体の取組を選定した。

地域のお子さんたちと取り組んでいるワークショップ型の活動、次世代の高校生と共に取り組んでいる事例、住民と大学生との連携による活動、歴史的な建物や景観を人口減少による衰退を食い止め、地域の推進力を増していこうとする活動、手づくりで里山・里地を育む取組など多彩な取組の応募があり、さらにそうした活動を発信していくなど、各世代の力を活かしながら取り組んでいる事例が多く応募され、審査員一同楽しみながら、まず、第一次審査では書類審査をさせていただいた。

審査に当たっての評価のポイントは次のような視点から行った。① 景観まちづくり活動や教育の継続性、② 活動・教育実施における地域社会とのかかわりや連携性、③ 実施方法や内容の独自性や工夫、④ 活用や教育を行う対象との双方向性や対話性、⑤ 活動成果の地域への波及効果や良好な景観形成等に対する顕著な効果の発現、さらに将来において顕著な発言が期待できる、である。

第二次審査結果を踏まえ、今年度は大賞として 3 件、優秀賞として 6 件を選定した。詳細な評価に関しては、各審査講評を参照していただきたい。評価されたそれぞれの活動は地域の活性化や持続性をめざして、地域の住民の方々や次世代を担う方々との連携と学び合う関係づくりをしながら着実に進めており、活動の効果の発信に向けての努力が行われているものであった。次年度も、多彩な活動による全国各地の成果の応募を期待したい。

なお今回、惜しくも受賞の逃した団体の活動にも多くの評価すべき点がある。本部門の評価としての先に述べた 5 つの評価のポイントを配慮していただくと共に、受賞活動団体の受賞理由を熟慮して頂き、今後とも景観まちづくり活動と教育を継続していただき、再度の応募を期待したい。

「大賞」(国土交通大臣賞)

■活動名 : 南町2850プロジェクト ～喜多方市小田付地区 空き家・空き地の再生～

■活動範囲 : 福島県喜多方市(小田付地区)

■応募者 : 会津北方小田付郷町衆会、福島県立喜多方桐桜高等学校、株式会社ワークヴィジョンズ、福島県建築士会 喜多方支部、株式会社 光進都市コンサルタント、福島県喜多方建設事務所、喜多方市、公益財団法人 福島県区画整理協会

■活動の概要 :

「南町 2850」は長い間、空き地・空き家として放置され、景観協定地区内にあることから地元住民にとって悩みの種であった。平成 23 年の東日本大震災で蔵の壁が一部崩壊したことをきっかけに、町衆会が中心となり桐桜高校などの協力を得て、南町 2850 の再生が始まった。平成 25 年の大雪では家屋の一部が倒壊し、継続的に活動を続けていくことが必要となり、平成 25 年からは福島県区画整理協会の「地域づくり活動支援事業」、平成 26 年からは福島県「子ども未来創造まちづくり事業」の支援を受けて活動している。

この「南町 2850 プロジェクト」は、小田付地区の表通りに面する荒廃した空き地・空き家を舞台に喜多方の蔵文化の継承活動を行う事を目的としている。高校生が地元の人や職人等のプロと一緒に、まちあるき、デザインワークショップ、施工ワークショップという一連の活動を通して、自分たちで考え、自分たちで施工するという、教室では得られない貴重な経験を積んでいる。



喜多方桐桜高校エリアマネジメント科3年生38名、1年生39名との「芝生ワークショップ」の開催(2013年9月)。

■審査講評 :

本プロジェクトの地域では急速な人口減少によって空き家(空き蔵)が増え、それらが平成 23 年の東日本大震災で一部崩壊などの被害が出てきており、喜多方市「小田付地区まちづくり整備方針」(平成 24 年)づくりが契機となって『小田付まちづくり協議会』が発足し、確実な成果を出している活動である。特に、「おたづき蔵通り街路整備事業」として毎年、喜多方桐桜高校エリアマネジメント科と建設科の2・3年生も参加する活動は高校生がまちに出て、まち歩き、施工ワークショップ等を通じて、地元の人や職人等との交流を行い、実際にまちを変えることにより、まちの人々に刺激を与えている。さらに高校生がデザインワークショップで考えたプランをもとに実際に施工した現場が、将来もまちの風景として残っていくことから、生徒たちは大変やりがいをもっている活動である。高校生が地元の人や職人等と活発な対話を行い、普段、あまり交流の機会がない両者にとって大変刺激になっている。なお本プロジェクトは福島県の地域づくり活動支援事業、子ども未来創造まちづくり事業として位置づけられていることは今後の展開にも期待が持て、世代の交流も良好で、旦那衆のまちづくり遺伝子が次世代の若旦那に引き継がれ、さらに高校生を巻き込んだ人材育成としても独自性のある取組であり、都市景観大賞にふさわしいと評価できる。(小澤)

■活動名 : 景観まちづくり 街のみんなでおもてなし「福江*つるし飾りロード」

■活動範囲 : 愛知県田原市(福江地区)

■応募者 : 清田・福江校区まちづくり推進協議会

■活動の概要 :

福江地区は、地域を流れる免々田川沿いに咲く河津桜や菜の花を始め、陣屋跡周辺に広がる歴史ある街並みや特徴的な石垣、昔の港町の商店街に残る昭和の街並みなど、美しい自然的景観や歴史的環境に恵まれている。しかし、田原市の中心市街地と、観光地の伊良湖岬の中間に位置する福江地区は、その景観の魅力などが地域の活性化に活かされずに通過点となっており、地域の衰退が懸念されるだけでなく、アパートなどの立地により昔ながらの歴史ある街並みも失われつつあった。

このような状況の中、当協議会が中心となり、景観ガイドラインの策定に向けた取り組みや、「福江*つるし飾りロード」を中心に地域の自然や菜の花を活用した景観教育や景観まちおこしなど、地域の保育園や小学校、中学校、高校、地域住民、関係団体、行政等が協働し活動を推進している。活動を継続的に行うだけでなく、景観まちづくりを軸にした人材育成、地域の活性化に取り組むなど、活動は更に広がりを見せている。



満開となった、免々田川沿いの河津桜と菜の花を見ながら週末には多くの観光客が散策。

■審査講評 :

今回、愛知県田原市が大賞を受賞するに至った大きな理由の一つは、応募団体が築き上げた“まちの人々のつながり”と言ってもよい。日常の活動は50名の会員が主体となり3つの部会に分かれ活動しているのだが、その各部会にかかわる組織がまさに、“まちのみんな”という構成になっている。応募表題の「福江*つるし飾りロード」は、地域を流れる免々田川沿いの菜の花・桜まつりに合わせた活動だが、応募団体の活動の一つに過ぎない。元々は保育園で行われていた行事であったが、それを応募団体が中心となって働きかけたことで、保育園、小学校、中学校、高等学校と地域内の教育機関がそれぞれの特色を出しながら参加しているのである。その上、地域の商店は言うまでもないのだが、その時期に合わせ電鉄会社が周遊券の販売や特別ダイヤを組むなど地域の事業者もしっかりと役割を担っている。また、日常の活動においても中学校のボランティアクラブと共に景観美化に努め、文科省の委託事業「学校と地域が協働するまちづくりプロジェクト」にも連携するなど、活動も多岐にわたっている。また、これらを推進するために行政内部の“まちづくり推進課”と“教育委員会”との連携も密に行われている。これらの箱モノにとらわれないソフト事業が先行する活動の継続への期待、これらも受賞の大きな理由となっている。(大道)

「大賞」(国土交通大臣賞)

- 活動名 : 西鉄柳川駅周辺に於ける市民・事業者・行政・専門家による景観まちづくりの取り組み
- 活動範囲 : 福岡県柳川市(西鉄柳川駅周辺地区)
- 応募者 : 柳川市、西日本鉄道株式会社、西鉄柳川駅周辺地区デザイン検討会議、柳川市立藤吉小学校 育友会 父親委員会

■活動の概要 :

柳川市は、景観計画に基づき市民自らがまちや暮らしの価値感を高め、景観づくり活動を広げていくことに取り組んでいる。景観重要地区・西鉄柳川駅周辺においては、水都柳川の玄関口に相応しい公共空間(駅前広場、自由通路、駅舎)整備を核としつつ、市民・事業者・行政・専門家の協働によって、単なる通過点だった駅前空間を市民と来訪者の交流にぎわい空間へと再生した。

駅前空間整備においては、市民ニーズ等を反映し、かつ質が高く一体的なデザインを実現するプロセスを大切に計画～設計～施工～整備後まで一貫した「市民ワークショップ」を開催し、多様な市民の参画機会を促進した。

また、「市民ワークショップ」からは、柳川らしいデザインや暮らし方を再認識する活動や地元小学校の親子による「モノづくりワークショップ」開催等の取り組みが派生した。製作された杉ベンチ・フェンス等は駅前空間に設置され、イベント等に利活用されている。

そして本プロジェクトに参画した市民が主体となり、駅前利活用や活性化へ向けた新たな景観まちづくりの取り組みが生まれている。



藤吉小学校父親委員会と地元美容専門学校学生が連携し、駅前広場でハロウィンイベントを開催。

■審査講評 :

駅を含む整備には鉄道会社をはじめ多くの主体が絡むため、そのマネジメントだけでも大変な困難を伴う。検討組織を作り上げた上で市民との協働をこれだけ充実させたことについて、関係者の皆さんに敬意を表したい。

特にこれまでまちづくりに関わっていなかった若手や子供たちに参加の輪を広げたことは、担い手が固定しがちな市民参加において特筆すべきことである。利活用市民ワークショップは多くの市民を巻き込んできめ細やかに発展・展開し、プロのデザイナーと市民の協働によりクオリティの高さと手作り感が共存した空間が実現している。現地審査でお会いした方全員の顔にプロジェクトに対する自信と誇りが満ちあふれており、このプロジェクトが人の心に与えた効果を如実に現していた。

本プロジェクトの実施によって、まちの構造・空間の問題が解決されたのみならず、地域を担う人材のネットワークが新たに形成されている。これまで地域に関わるのが少なかった父親の役割や存在感が増し、子供たちがそこに关わることで、次世代の種もまかれている。これは景観まちづくりがめざす理想型のひとつであるといえよう。駅前利活用など次の取り組みも始まっているという。今後の息の長い活動と展開を期待したい。(福井)

「優秀賞」((公財)都市づくりパブリックデザインセンター理事長賞)

- 活動名 : 高校生と共に進めるイザベラ・バードの古道復元活動
- 活動範囲 : 山形県川西町(小松地区)
- 応募者 : 諏訪峠古道保存会

■活動の概要 :

当地区は、旧越後街道を新潟から米沢に向かう最後の宿場町として栄え、寺社など古の所縁の地も多い。中でも明治11年、イギリス人女性旅行作家のイザベラ・バードが辿った道は、著書「日本奥地紀行」にも記された。しかし、旧越後街道十三峠の最終峠でもある諏訪峠古道は灌木に覆われ、昔の面影を失っていた。その諏訪峠古道の復元をめざしながら、イザベラ・バードが絶賛したといわれる眺望や、「東洋のアルカディア」と評した豊かな大地を地元の宝として残すために、異世代が連携し、次世代に継承する景観教育並びにまちづくりに取り組んだ活動である。また、これは単なる古道整備に終わる活動ではなく、バードが辿った道をトータルな景観として完成させながら、歴史教育やまちづくり活動の生きた教材として整備しながら、地域の宝物を次世代に残し、その自覚と誇りを、自らの行動によって体得させようとするもので、高校生等の若者と地元住民が一体となった地域創生につながる景観活動である。



次世代継承事業として、地元農業高校生ガイドの養成講座を開講。

■審査講評 :

英国人旅行作家イザベラ・バードが明治時代に日本奥地紀行に記した諏訪峠に注目し、彼女が旅した古道を復元させようという発想はユニークである。特に、地元置賜農業高校の生徒が課題研究という授業の一貫として、山道を切り開きながら古道を歩ける形に整備し、彼女が「東洋のアルカディア」と評した場所といわれる山頂にアクセスできるようになったことは大変素晴らしい。現在でも、そのポイントから美しい眺望景観を楽しむことができる。また、生徒がこの活動を通じて、郷土の歴史や魅力を学習した点も評価できる。

しかし、その古道の整備はまだ上り道だけで、案内板の設置も今後の課題であるため、もう少し継続的な活動を期待したい。また、農業高校の生徒とその卒業生はこの古道整備だけでなく、羽前小松駅の有人運営、地場商品の開発、チャレンジショップの運営等、地域づくりに幅広く関わっており、この点も高く評価できる。(卯月)

- 活動名 : まちづくり総合学習
- 活動範囲 : 福島県いわき市(久之浜・大久地区)
- 応募者 : いわき市立久之浜第一小学校、久之浜大久地区まちづくりサポートチーム

■活動の概要 :

当地区は東日本大震災により甚大な被害を受けた地域であり、現在も多くの課題を抱えている。復興事業は住民有志による協議の上で進められ、震災復興の指針となるグランドデザインを策定、災地の造成工事が進んでおり、平成28年度より序々に建物が施工される予定である。そういった中、短期で考えるまちづくり(避難経路の整備や、廃れつつある地域行事の復活など)と長期で考えるまちづくり(未来の子どもたちにどのようなまちを残すのかといった議論)が進んでおり、地元の小学校である久之浜第一小学校と、建築家が多く在籍する久之浜大久地区まちづくりサポートチームが震災後のまちづくり教育で連携し、「未来のまちづくりの担い手を育てること」「まちづくりを通して考える力を育むこと」を目標に授業やワークショップを共同で運営する事となった。子どもたちが「自分の住む地域の魅力を考えることの大切さと面白さを感じてもらうこと」「自分の意見を一住民(未来のまちの担い手)の意見として大人へ届けること」をテーマに本プログラムは開発された。



ファシリテーター(サポートチーム&地元の方)と共にアイデアを出し合う子どもたち。

■審査講評 :

応募地域の福島県いわき市久之浜・大久地区は先の震災で甚大な被害を受けた地域である。そして、まさに現在進行形で復興が進められている地域でもある。本団体の活動はその地域にある久之浜第一小学校に於いて、総合的な学習を通してまちづくりへの提案を視野に入れた活動を展開している。この教育プログラムは既に、多方面から高い評価を受けているが、カリキュラムを見てみると確かに随所にユニークな工夫が見られ興味深い。子どもたちの表現力を様々な形で表出させる試みもその一つである。また、防災緑地をテーマとしたプログラムなどは、復興途上である被災地沿岸部の他校においても参考となるカリキュラムであろう。但し、活動期間が3年間という活動期間の実績と、今後、継続してゆくための諸機関との連携方法などの課題が残されている。これらのことを総合的に判断した結果、優秀賞とした。(大道)

「優秀賞」((公財)都市づくりパブリックデザインセンター理事長賞)

- 活動名 : 栗山みどりの保全事業(たろやまの郷)
- 活動範囲 : 千葉県四街道市(たろやまの郷)
- 応募者 : 四街道市、栗山みどりの保全事業実行委員会

■活動の概要 :

四街道市は、首都圏の住宅都市であると同時に、住宅地に隣接した地域にはいまだ豊かな林野が残されている。しかし、土地所有者の高齢化や後継者不足により、里山の手入れが行き届かず、荒れたり休耕地になることも少なくない。

このような背景のなか「たろやまの郷」では、土地所有者のご厚意により土地を借り受け、市と栗山みどりの保全事業実行委員会の協働により、昭和30年代の里山風景の再生を目指した保全を行っている。また、近隣小学校の授業の一環として、年4回の自然観察会や、田植えや稲刈りの体験、収穫したお米による収穫祭を実施しており、自然のある景観形成の大切さを学ぶ機会となっている。

整備以前は立ち入ることも難しい荒れた状態であったが、整備後は、下草に埋もれていた植物が新たに芽吹き始め、無農薬での稲作を再開したことで、ホタル、トンボ、カエルなどの生き物が田に戻り、生物多様性が回復しつつある。

また、定年退職後の方々が多く参加する市民団体と小さな子どもを持つ親が集まる市民団体が活動を共にすることで、かつての里山の記憶を語り継ぐ貴重な場となり始めている。



地元小学校の稲刈り体験の様子。自分たちで植えた稲を収穫。

■審査講評 :

“たろやまの郷”は首都圏から通勤圏内にある地域に残された面積約5.8haに及ぶ里山である。元々は土地保有者の高齢化や後継者不足などの理由から手入れが行き届かず荒れた状態であったという。

その里山を土地所有者の理解のもと、再生と保全に取り組んだのが今回の活動である。具体的な成果の中には、休耕地での稲作を再開する等の整備作業で、それまでの荒れた状態では見られなかった生物多様性が回復している。そして、現在では応募団体が伐採などで整備した散策路は、延長1,300m、耕作面積5,022㎡と昭和30年代の里山を再現しつつある。しかし、この活動の魅力はその団体の構成にある。四街道市内にある自然保護団体6団体がそれぞれ自分たちの得意分野を担当し、日々の活動を行っている点である。無理なく自分たちの得意分野を生かすことで、活動の持続が期待できる。また、ここでの行政のサポートも見逃せない。土地所有者、地元自治会、6つの組織からなる実行委員会の円滑な仲介や連絡を担ってきたのである。今回は実際に整備された里山の状態と実行委員会の組織構成、行政のサポート等総合的に判断した結果、優秀賞とした。(大道)

- 活動名 : ふじさわこどもまちづくり会議
- 活動範囲 : 神奈川県藤沢市(藤沢市内全区)
- 応募者 : ふじさわこどもまちづくり会議実行委員会

■活動の概要 :

当活動は、藤沢市内の小学生を対象にした『自分たちの30年後のまち』について考える体験型ワークショップであり、毎年1回、市内1地区を選定し、地元公民館を中心に活動を実施している。

子ども達は、『まち』のなりたちや自然環境、町並みなど、タウンウォッチング(探検)を通じて体験し、地域の人々の声や、昔の資料から歴史を学び、その体験をもとに、具体的にどのような未来のまちが理想であるか、子ども同士が話し合い、大きな模型(1/500)で表現している。

スタッフは、市民(建築士、行政議員、会社員など)と市内外の大学生ボランティア(早稲田大学、法政大学、東京大学、日本大学、東海大学、慶応大学、東京理科大学等)が中心となっており、市民団体や行政区の枠を超えたコラボレーション活動として数多くの受賞歴があり、藤沢の地域教育として評価されている。近年では参加した子ども達が中学生・社会人スタッフとして活動を支えるようになり、継続される理念・まちづくりの基盤が、ここ藤沢から生まれている。



完成写真。子ども達が考えた1/500の都市計画模型を前にスタッフと一緒に記念撮影。

■審査講評 :

小学生を対象に、「自分たちの30年後のまち」を考え、最終的には縮尺1/500で畳3帖程度の大きな模型を製作するプログラムは、大変興味深い。毎年市内の地域を変えながら、本年19年目を迎えるこの継続的な活動は、他都市にも広がりを見せ、高く評価できる。また実施にあたって、地元住民はもちろん、藤沢市教育委員会、スタッフとして多くの大学生が連携、協力している点もすばらしい。特にまちづくりを学ぶ大学生にとっては、こどもとまち歩きをし、こどもの考えを模型づくりに反映させることによって学ぶことは大きい。今後20年目を迎えるにあたって、これまでの事業の成果を検証し、さらに具体的な地域のビジョンづくりに結びつけるような取り組みをすることをおおいに期待したい。(卯月)

「優秀賞」((公財)都市づくりパブリックデザインセンター理事長賞)

- 活動名 : 懐島プロジェクト—歴史・地形・生活から読み解く—
- 活動範囲 : 神奈川県茅ヶ崎市 (懐島エリア)
- 応募者 : まち景まち観フォーラム・茅ヶ崎

■活動の概要 :

当活動は、発展するプロジェクト、新事業を創出するプロジェクトである。茅ヶ崎の魅力は南側の海岸と北部丘陵だけではない、古い歴史のある中部地域の魅力を掘り起こしたいと考え、当初、対象地域を平安時代末期創建の鶴嶺八幡宮周辺としたが、住民の声に答える形でこの一帯の古い地名「懐島郷」のエリアに拡大した。

会員有志と協力者 11 人で始めた景観資源調査の結果をもとに、茅ヶ崎市市民活動げんき基金の助成を受けて「懐島・景観まち歩きマップ」を制作。これをきっかけに、地元自治会、小学校、祭囃子保存会、環境保護団体、生産組合へと人の輪が広がった。

活動テーマの「まち歩きから始まる景観まちづくり」が「まち歩き音声ガイドサービス」の事業に、住民が主体となって作成した「(仮称) 民話『河童徳利』ひろば」計画案の手ごたえが「「景観まちづくりセンター・茅ヶ崎」実証実験」の事業へと繋がった。



懐島エリアの大きな地図を広げ、マップ完成記念「懐島・景観まち歩き&報告会」の開催 (平成 22 年)。

■審査講評 :

一般的に茅ヶ崎というと南側の海辺と北部丘陵をイメージされるが、本懐島プロジェクトは景観的に特色のない地域とされていた「懐島郷」地域を対象としている。この地域では、平安末期創建の鶴嶺八幡宮をはじめとする寺社、古道、農村風景などの景観資源が農地の宅地化、高速道路の建設に伴う地域の分断化などにより地域の貴重な景観資源が埋没し、地域住民にも地域の魅力が分かりづらくなってきている。そこで始められたのが地縁組織型ではない、自然保護グループ、田園風景を守ると共に生きものと共存したお米の生産・販売するグループ、魚道・ビオトープ水田を推進しているグループが連携して行政の推進する市民発意の総合景観まちづくりにも位置づけられ、長年継続されている活動である。

具体的な活動は景観まち歩きマップ制作、小学生を対象とした「学区たんけん」、市民参加による民話公園提案などであり、民話公園は実現される予定である。またニュースレターの発行や他の市民活動との連携や景観まち歩きマップの制作・発行など活動に広がりを見せている。さらに地元小学生に地域の歴史や景観の要素の解説などの啓発活動の実践により教員を巻き込んでいくなどの次のステップを構想していることは評価したい。ただ、社会実験として企業と連携した音声ガイドに関して、地域のガイドさんの研修に用いるのは良いが、音声ガイドを持参して歩くのには限界もあるので今後の工夫に期待し、懐島郷の景観的良さが啓発され、広く認知されることを期待していきたい。(小澤)

「優秀賞」((公財)都市づくりパブリックデザインセンター理事長賞)

- 活動名 : 中山道中津川宿の景観まちづくり
- 活動範囲 : 岐阜県中津川市(中山道中津川宿)
- 応募者 : 本町中山道景観協議会+中津川市+名古屋工業大学景観研究会、中津川市、名古屋工業大学景観研究会

■活動の概要 :

活動エリアは、中山道旧中津川宿の本町横町中町下町含む500mほどの中山道地区とその周辺地区であり、中津川市の商業の中心地となっている。江戸時代からの町割りが現在も残り、伝統的形態の民家が軒を連ねている。現存する水路も景観に趣を添え、往時の面影を今日に伝えている。

「美しい景観は、単に自然が美しいとか、建物が美しいとかいった物的な物の美しさではなくて、それを創り出している人々の生活の心的な美しさである」との思想のもとで、魅力資源の発掘と活用提案、まち歩きマップの作成、子どもの遊びの環境の提言、「まちクラブ」の改装案の提案など、景観まちづくり活動を8年間滞りなく継続している。

この活動により中山道の旧宿場町をつなぐ住民組織の連携、東濃地区の市役所(景観行政担当部局)と大学、まちづくり団体の専門家による情報交換の場が設定される等、まちづくりの広がりを見せている。また、景観協議会は住民とのつなぎ役、市役所は、活動の推進・調整・実施役、景観研究会は学生教育を兼ね、活動のお膳立てや調査・分析、計画案の作成役と役割分担の明確さも特徴である。



地元小学校と協力してまち歩きワークショップの開催。小学生は夏休みの課題として熱心に勉強。

■審査講評 :

本事業の対象は延長500mほどの区間であるが、民間建築の修景・公共空間の整備と維持・花木の飾りなど、住民のみなさんの愛着と熱意を濃密に感じることができる。官民学の協働は珍しくないが、ここでは各主体が実に活発に動いている。住民組織である景観協議会は「自分たちのまちを自分たちで作る」という意識のもと、行政・住民・大学の間をとりもつ番頭役として動いており、特に地域の女性による「中山道こまちの会」の行動力は大きい。名古屋工業大学は景観研究会を組織し、調査やワークショップ等で若者が継続的に地域に関わる状況を実現している。さらに活動経過を書籍「景観まちづくりの軌跡-中山道中津川宿における実践-」として上梓した。同書は将来にわたって地域の貴重な財産となるだろう。行政はこれらの活動に対して景観法の活用や市独自の補助金制度などでサポートしているが、補助金によらない自主的修景もあることが住民意識の高さを感じさせる。

この地区は景観計画重点地域に指定されている。景観計画の運用では民間建築への規制に重きが置かれがちであるが、ここでは上記の活動によって中山道の歴史的風景の再創造につながっていることが評価できる。(福井)

平成 28 年度 都市景観大賞について

平成 28 年度からは、下記の通り、「都市空間部門」と「景観まちづくり活動・教育部門」について募集しました。昨年度、景観法 10 周年記念として実施した「景観づくり活動部門」と従来の「景観教育・普及啓発部門」を統合し、本年度から、新たに「景観まちづくり活動・教育部門」として募集しました。

I. 都市空間部門について

1. 表彰目的

都市景観大賞「都市空間部門」は、良好な都市景観を生み出す優れた事例を選定し、その実現に貢献した関係者を顕彰し、広く一般に公開することにより、より良い都市景観の形成を目指すものです。

2. 表彰内容

- ① 大賞（国土交通大臣賞） ……原則 1～2 地区
- ② 優秀賞 ……数地区
- ③ 特別賞 ……内容に応じ、適宜選定

3. 対象地区の要件

本賞は、街路・公園や公開空地等の公共的空間とその周りの宅地・建物等が一体となって良質で優れた都市景観が形成され、それを市民が十分に活用することによって、地域の活性化が図られている地区を対象とします。単独の公共施設、建築物、構造物は対象になりません。

4. 応募者の資格

良質で優れた都市景観の実現に深く寄与した地方公共団体、まちづくり組織、市民団体、民間企業・コンサルタント、独立行政法人、公社等とします。

※多くの関係者による共同応募が望ましいですが、単独でも応募者になれます。

5. 審査

「都市景観の日」実行委員会内に設置される都市景観大賞審査委員会において、応募図書等をもとに、内容を審査（書類選考、現地視察・ヒアリング）した上で、表彰地区を選定します。

6. 審査委員

委員長	陣内 秀信	法政大学教授
委員	池邊このみ	千葉大学教授
	卯月 盛夫	早稲田大学教授
	岸井 隆幸	日本大学教授
	佐々木 葉	早稲田大学教授
	高見 公雄	法政大学教授
	田中 一雄	㈱GK インダストリアルデザイン代表取締役
	富田 泰行	トミタ・ライティングデザイン・オフィス代表取締役
	国土交通省	都市局公園緑地・景観課長
	国土交通省	都市局市街地整備課長
	国土交通省	住宅局市街地建築課長

(順不同、敬称略、平成 28 年 5 月現在)

II. 景観まちづくり活動・教育部門について

1. 表彰目的

都市景観大賞「景観まちづくり活動・教育部門」は、地域に関わる人々が景観に関心を持ち、自らの問題として捉え、その解決へ向けて活動できるよう意識啓発、知識の普及、景観法や景観に関する制度等（以下「景観制度」という。）を活用した取組等による活動を選定・顕彰し、広く一般に公開することにより、より良い都市景観の形成を目指すものです。

2. 表彰内容

- ① 大賞（国土交通大臣賞） ……原則 1～2 活動
- ② 優秀賞 ……数活動
- ③ 特別賞 ……内容に応じ、適宜選定

3. 募集対象

景観まちづくり教育の実施や、街歩きや景観に関するセミナーの開催、景観制度を活用した取組など景観まちづくり活動の実施による良好な景観形成等のための活動を地域に根差して行っており、それらが地域の人々の景観への意識・関心の高揚等につながっている優れた活動を対象とします。

4. 応募者の資格

景観まちづくり活動や景観まちづくり教育による意識啓発、知識の普及、景観制度を活用した取組などを行っている、学校、まちづくり組織、市民団体、地方公共団体などで、かつ、地域に根差した活動を 3 年以上継続して実施している団体とします。

5. 審査

「都市景観の日」実行委員会内に設置される都市景観大賞審査委員会において、応募図書等をもとに、内容を審査（書類選考、現地視察・ヒアリング）した上で、表彰団体を選定します。

6. 審査委員

委員長	小澤紀美子	東京学芸大学名誉教授
委員	卯月 盛夫	早稲田大学教授
	大道 博敏	江東区立越中島小学校主幹教諭
	福井 恒明	法政大学教授
	国土交通省	都市局公園緑地・景観課長

(順不同、敬称略、平成 28 年 5 月現在)